臨床研究に関する情報公開について

インフォームド・コンセントを受けない場合において、『人を対象とする医学系研究に関する倫理指針』第5章 第121(3)アに基づき、以下の通り情報公開します。

研究課題名	Alagille 症候群における肝外合併症の調査研究
研究機関の名称	自治医科大学移植外科学講座
研究責任者の氏名	真田幸弘
研究対象	2000年1月1日から2023年12月31日までに当院移植外科で診
	察を受けた Alagille 症候群の患者さんを対象とします。
研究の目的・意義	Alagille 症候群は平成 27 年に難病指定された遺伝性肝疾患の一
	つで、JAG1 や NOTCH2 の変異により、肝内胆管減少から乳児期に
	胆汁うっ滞性肝障害を呈します。Notch シグナル経路の異常によ
	る胚発生段階での胆管形成不全が新生児・乳児期から起きる胆汁
	うっ滞性肝障害の原因でありますが、その他にも心血管奇形や腎
	障害、椎骨形成異常など全身に表現型を呈します。これらの症状
	は乳幼児期のみならず、生涯にわたって発症することがあります。
	そのため、Alagille 症候群では肝臓だけでなく、包括的な医学的
	管理が求められており、とりわけ脳血管異常は生命予後に影響す
	ることが既に知られています。近年、脳血管のみならず腹部の血
	管、特に腎動脈の異常により腎不全や腎性高血圧を起こすことが
	報告されています。しかしながら、このような腹部血管の異常に
	関する情報はまだ少なく、未だ不明な点が多く残されています。
	また、その他にも脳血管障害や腎機能障害などの肝臓以外の臓器
	障害に関する合併症や診療の実態は不明です。そこで、これらの
	肝臓以外の全身合併症に関する実態把握を行うことが本研究の目
	的となります。
	国内の Alagille 症候群症例における全身合併症 (腎臓、心臓、骨、
	血管など)の実態を把握することによって、本疾患における医学
	的管理の水準向上を目指すことができます。また、全身合併症の
	うち予後予測に重要な因子を同定できれば、臨床診療上役立てる
	ことができます。
研究方法	筑波大学小児科を主たる研究施設として、2023 年 12 月までに当
	院移植外科で診察を受けた Alagille 症候群の患者さんの診療情
	報を抽出し、Alagille 症候群症例における全身合併症(腎臓、心
	臓、骨、血管など)の実態を把握します。
	また、得られた結果を元に、全身合併症のうち予後予測に重要な

	因子を同定し、臨床診療に役立てます。
研究期間	2024年3月31日まで
研究に利用する情報	患者さんの診療録より、以下の情報を使用いたします。
	臨床所見(性別、年齢、身体所見、現病歴、既往歴、出生歴、家
	族歴、生活歴等)、検体検査(AST, ALT, LDH, UA, gGTP, T-Bil, BUN,
	Cre, IgG, TP, ALB, CRP, ESR, フェリチン、血算・凝固、尿、便等)、
	感染症検査(培養、抗体、抗原等)、画像検査(X 線、CT、MRI、
	超音波、核医学等)、病理検査(細胞診、組織診)、染色体検査な
	ど。
	患者さんが解析対象となることを拒否された場合は対象から外さ
	せていただきますので、下記研究責任者までご連絡ください。た
	だし、連絡をいただいた時点で既に解析がおこなわれていたり、
	あるいは研究成果が論文などで発表されている場合には、対象か
	ら外すことはできません。ご了承ください。なお、研究に参加さ
	れなくても不利益を受けるようなことは一切ありません。
研究に関する情報公	あなたのご希望があれば、個人情報の保護や研究の独創性の確保
開の方法	に支障がない範囲内で、この研究計画の資料等を閲覧または入手
	することができますので、お申し出ください。
個人情報の取り扱い	診療録データは研究責任者が匿名化(匿名化対応表あり)したう
	えで、研究に使用します。データは研究責任者が移植外科学講座
	においてパスワードを設定したファイルに記録し、USB メモリに
	保存します。また、匿名化した情報およびデータを共同研究施設
	である筑波大学小児科へ送りますが、その際も情報の取扱いには
	十分配慮を行ない、匿名化対応表は提出しません。研究成果は、
	個人を特定できないようにして論文などで報告します。
問い合わせ先および	【研究責任者】
苦情の窓口	自治医科大学移植外科学講座
	役職 講師 氏名 眞田幸弘
	〒329-0498 栃木県下野市薬師寺 3311-1
	電話: 0285-58-7069
	【苦情の窓口】
	自治医科大学臨床研究支援センター臨床研究企画管理部管理部門
	電話:0285-58-8933